

木の言い分⑱

■木霊の話

今回は『樹の霊』でも“木霊”のお話です。今時の若い衆に木霊といっても笑い飛ばされるのがオチでしょうが、そのわりに木霊という漢字が読めない人も多いですネ。これは“コダマ”です。

木霊の話が古事記と日本書紀に書かれていますので、記紀の話を変えて私が体験した不思議な話を紹介しましょう。

記紀は、日本で最も古い歴史書だといわれていますが、古事記は歴史よりも文学書としての内容が濃いという学者もいます。とにかく記紀には、恋愛あれば略奪婚もあり、闘争があれば強姦や殺人の話もあります。そんな中でも木の話が沢山出てきます。その木に霊が宿っている。邪気を祓う呪力がある、と考えられていた木があります。モモ、ヒイラギ、ヌルデ、フジの話が書かれています。

桃の実が悪霊邪気を祓うという中国思想に基づいているという説明は見受けられますが、邪気を祓う呪力があるとされた理由がよくわかりませんでした。いろいろ調べたところタオイズムの中に、なんとか理由になりそうな記述がありました。中国の古い時代の考えにタオイズムという観念があり、老子や荘子にも影響を与えた哲学らしいです。このタオイズムに「桃の実が長生のシンボル」とあります。

伊邪那岐命（イザナギノミコト、日本書紀は伊弉諾尊）が黄泉国（ヨミノクニ＝死の国）から逃げてくる時、黄泉軍（ヨモツイクサ）に追いかけられましたが、桃の実3個を投げつけて難から逃れました。黄泉軍が退散したのは、桃の実が長生のシンボルだったからでしょうか。桃の話は、中国古典の「山海経」「淮南子」にもあるそうです。

倭建命（ヤマトタケルノミコト、日本書紀は日本武尊）が東の方の荒ぶる神を静めに行くとき、景行天皇はヒイラギで作った長い棒を倭建命に与えました。ヒイラギも悪霊邪気を祓う力を持っていると信じられていました。今でも節分に悪鬼払いとして、イワシの頭をヒイラギの枝葉に挿して戸口にかかっていますネ。

厩戸皇子（ウマヤドノミコト＝聖徳太子、古事記は厩戸豊聰耳命ウマヤドノトヨトミミノミコトの名のみ）は白膠木（ヌリデ＝ヌルデ）を切り取って四天王の像を作り、戦に勝ったら寺塔を建てようと誓いを立てます。このヌルデは勝軍木とも書き、霊木とされ、佛像の心木に用いる、といわれています。また別の本には、ヌルデは護摩木に用い、とありますので悪霊邪気を祓う力が大きいのでしょうか。

これら霊木のほか、古事記には藤の不思議な話があります。藤自身に呪力があるのか、他の呪力によって藤に不思議な力が与えられたのか、それはわかりませんが、藤の不思議な力によって私自身が命を助けられましたので、次号は私の不思議な体験談を書く事にします。

樹木医 澤田 清
(NPOおおさか緑と樹木の診断協会顧問)